



新聞・雑誌から見る現代日本

しんぶん ざっし し み げん だい に ほん

第32回

世襲議員の是非

このコーナーでは、新聞・雑誌の記事を通して現代日本事情の紹介をするとともに、日本語を教える先生方が新聞・雑誌の記事などの生教材をどうやって教材化し、中・上級の日本語の授業にどう活用できるかを提案していきます。

読む前に

みなさんは、親の仕事を将来自分もしたいと思ったことがありますか。あるいは、自分の今の仕事を子供に継いでもらいたいと思いますか。どうしてそう思いますか。子供が親や親族の仕事や地位を引き継ぐことを世襲と言ひ、日本の場合、能や歌舞伎などの役者、茶道や華道の家元のように伝統の継承が重んじられる世界では世襲が一般的です。また、個人経営の店や町工場なども家業として世襲されるのが普通です。

では、政治の世界ではどうでしょうか。ここ3代の首相だけを見ても、安倍元首相の祖父、福田前首相の父、麻生首相の祖父も首相でした。野党に目を向けても、5月に新しく民主党代表となった鳩山氏（記事が書かれた時点では幹事長）の祖父も過去に首相を務めています。

首相だけでもこのように世襲が目立つぐらいですから、国会議員全体ともなると、世襲の数はさらに多くなります。やはり親や親族が議員であれば、本人も議員になりやすいのでしょうか。確かに、世襲議員は三バン、つまり、「かばん」（お金）、「看板」（名前）、「地盤」（選挙区の後援会等の組織）を親や親族からそのまま引き継ぐことができ、有利だと言われています。

2009年は、日本にとって重要な総選挙（衆議院議員選挙）の年です。前回の総選挙が行われたのは2005年9月11日で、衆議院議員の任期は4年ですから、近いうちに新しい議員を選ばなければなりません。以前から議論のある世襲問題ですが、総選挙が近づくとつれ、この問題が活発に論じられるようになってきました。

みなさんは、議員の世襲についてどう思いますか。今回は、この問題に関する朝日新聞社の調査結果に基づく5月9日付の記事を2つ、毎日新聞の5月11日付の関連記事を1つ、読んでみましょう。

参考ウェブサイト A

■ The Japan Times Online “Hereditary politicians a fact of life -Some in LDP call for curbs on blue bloods-”

(2009年4月27日) (英語) <http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/nn20090427a2.html>

■ 毎日小学生新聞「政治 政治家の世襲 なりたい人をはばむ壁」(2009年5月24日)

<http://mainichi.jp/life/edu/maishou/mado/archive/news/2009/20090524kei00s00s2000c>

質問1: みなさんの国でも議員の世襲がありますか。そのような世襲は、どのように思われていますか。周囲の人に聞いたたりして、調べてみましょう。

質問2: 記事(1)と記事(2)のグラフからどんなことがわかりますか。本文を読む前にグラフを見てわかったことをお互いに話し合ってみてください。例えば、世襲の割合が一番大きいのは、現職衆議院議員、次期衆院選(衆議院議員選挙)立候補予定者、閣僚、の3つのグループの中でどのグループでしょうか。また、与党の自民党と野党の民主党では、どちらのほうが世襲の割合が大きいですか。

読もう

質問3: 記事(1)の見出しとリード文に「世襲」という言葉がありますが、ここで言う「世襲」は、どういう意味ですか。その意味を説明している記事本文の部分を書き出してください。

記事(1)

朝日新聞(朝刊) 2009年5月9日1面「世襲133人立候補予定」

『日本語教育通信』2009年7月「新聞・雑誌から見る現代日本」第32回に掲載している記事は、
著作権の関係で掲載ができません。

▲朝日新聞(朝刊) 1面 2009年5月9日

記事(2)

朝日新聞(朝刊) 2009年5月9日4面「世襲の当選率7～8割前後」

『日本語教育通信』2009年7月「新聞・雑誌から見る現代日本」第32回に掲載している記事は、
著作権の関係で掲載ができません。

▲朝日新聞(朝刊) 4面 2009年5月9日



風知草

専門編集委員 山田孝男

江戸時代に詳しい文芸評論家の野口武彦(1)によれば、幕末、幕府上層部から人材がいなくなつた最大の原因は大名と旗本の世襲制である。門閥による要職の独占が長く続き、バカ殿とダメ役人を輩出したというのである(「政体の末期に人材が払底するのはなぜか」中央公論08年12月号)。

将軍と老中がコロコロ代わつた幕末と首相がコロコロ代わつた現代は似ている。雑誌にそう書いた野口に「最近の国会議員の世襲禁止論議をどう見えていますか」と聞いてみたが、「慶応の改革ですよ」という言下の寸評の含蓄が深い。ケイオウノカイカク。将軍吉宗の「享保の改革」や松平定信の「寛政の改革」なら教科書に出てくるけれども、そんなのあったっけ……。あったのである。慶応2(1

866)年、徳川慶喜は駐日フランス公使ロッシュの助言に従い、幕臣・小栗上野介忠順を用いて郡県制の導入など思い切つた改革構想を打ち出した。が、翌々年、イギリスと結んだ薩長主導の明治維新にのみ込まれ、忘れられてしまう。

すと感じている。総選挙を控え、にわか政治論戦の焦点に浮上してきた議員世襲規制問題で先行したのは民主党だった。昨年来、政治改革推進本部(本部長・岡田克也副代表)で議論を重ね、「党内規を設け、世襲候補を同じ選挙区で公認しない」「政治資金規正法を改正し、政治資金管理団体(献金の受け皿)の継承を禁ずる」と決めた。一方、自民党。同党所属衆院

議員の4割が世襲(民主党は2割弱)で、麻生太郎首相自身と16閣僚中の10人がそうだ。である以上、この問題で民主党と張り合うことはないと思つていたが、違つた。仕掛けたのは菅義偉選挙対策副委員長。先月13日、いきなり世襲候補の立候補制限をぶち上げ、「自民党もそこまでやるのかと思われないと選挙に勝てない」とたたみかけた。党内たちまち騒然、森英介法

相に至っては「大正13年から一族で議席をいただいている」と言わずもがなの反撃に出、世間に強烈な印象を与えた。ケンカ上手の菅らしい手際だが、結局どうするのか、党内議論は煮詰まっておらず、話題づくりにとどまっている。民主党はもちろん、自民党も議員世襲制限の選挙公約化を探るといふ。両党が体質改善を競うのはけっこうなことだ。それはそれでいい。

世襲禁止はいいけれど

それと同じで、議員世襲規制という方向性は間違っていないが、規制自体は大変革の前の小改革にすぎない。それよりも大局を読み、全体を動かす政治家の器量が問われている。

議員世襲規制などどうでもいと言いたいのではない。それどころか、時代の気分を反映した世襲批判の高揚が政界を根底から揺さぶっており、このプレッシャーが大きな変化を生み出



題字・絵 五十嵐晃 (毎週月曜日掲載) 2009. 5. 11

秋までに必ず行われる衆院総選挙を経て強力な政権が生まれ、明治維新のような大改革が動き出すという保証はどこにもない。が、経済対策にせよ、新型インフルエンザにせよ、行政の各分野で重要な決断が求められる場面が増えている。外国の判断や前例に頼れないという点、幕末とよく似ている。政党改革が終わわり、世襲候補が封じ込められてからようやく現れる人材を待っている間に合わない。目の前の矛盾と戦って旧弊を破り、はい上がってくる人物が必要だ。(敬称略)

- 質問 4: 記事 (1) のリード文の最後に「当選や出世に影響していることもうかがえた」とありますが、何が当選や出世に影響しているのですか。
- 質問 5: 記事 (1) で、世襲について、いいと言われているのはどのような点ですか。あまりよくないと言われているのはどのような点ですか。
- 質問 6: 記事 (2) の本文 3 行目に「最近の選挙」とありますが、いつの選挙ですか。グラフを参考にして、「最近」の言い換えとなっている語句を本文から探してください。

質問7：記事(3)によれば、幕末(江戸時代の終わりごろ)と現代は、どんな点が似ていますか。似ている点を2つ書いてください。

質問8：記事(3)の見出し「世襲禁止はいいけれど」の後に続く表現として次のどれがいいですか。記事全体を読んで一番適切なものを選んでください。

- (1) 自民党と民主党が協力しなければ難しい。(2) そのためには強力な政権が必要である。
 (3) 重要な政治全体のことも忘れてはいけない。(4) それで世襲が完全なくなるわけではない。

読んだ後で

質問9：みなさんは、議員の世襲についてどう思いますか。制限したほうがいいと思いますか。しないほうがいいと思いますか。まず、自分の意見とその理由を書き出したあとと発表し、その後でみんなで話し合ってみましょう。

質問10：実際に世襲候補者は何人当選したか、自民党と民主党はこの問題にどう対応したか、総選挙が終わったあとウェブサイトなどで調べてみましょう。

〈解答例〉

質問1：(省略) 質問2：(省略)

質問3：「国会議員だった親や親族と同じ選挙区から立候補したり、選挙区の一部が重なっていたりする人」

質問4：立候補予定者が世襲であるかどうか

質問5：いいと言われている点：地元での活動の時間を少なくでき国政に集中できること

よくないとされている点：他の優秀な人材が立候補できなくなってしまうこと

質問6：96年の総選挙以降

質問7：(1) 国の指導者がよく代わる点 (2) 重要な問題があり外国や前例に頼れない点

質問8：(3) 質問9：(省略) 質問10：(省略)

参考ウェブサイト B

East Asia Forum “Japan: combating botchan rule” (2009年4月29日) (英語)

<http://www.eastasiaforum.org/2009/04/29/japan-combating-botchan-rule/>

NHK 解説委員室 時論公論「議員世襲 制限は必要か」(2009年5月7日)

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/19447.html> (NHK オンライン <http://www.nhk.or.jp>)

東京財団 論考「世襲議員と政策形成のあり方について—「政治主導」時代へのインプリケーション— (1)」(2009年2月12日)

<http://www.tkfd.or.jp/topics/detail.php?id=121>

〈解説〉

政治の話題は今まであまり取り上げてきませんでしたが、今回は議員の世襲に関する記事を選び、実際の教室活動の流れにそって質問と記事を提示しました。

久しぶりのグラフ付き記事ですが、「読む前に」でグラフを見て記事本文の内容を予測する練習を取り上げました。また、今回は背景知識として役立つような参考ウェブサイトをここでも紹介しました。

「読もう」では、見出し・リード文・本文の関連付けを問う問題、明示されていない主語を前後関係や文章全体から考える問題、等を練習に含めました。キーワードは、特に取り上げてはみませんが、「総選挙」、「世襲」、等の理解がこの練習を行う上で欠かせないことは言うまでもありません。

「読んだ後で」では、この記事が書かれた5月以降この問題がどのような展開を見せているのか調べ、その結果を確認することを促す質問も含めました。参考ウェブサイト B はさらに詳しく調べたい人のためのものです。

このコーナーの担当者：浜田盛男・林敏夫／関西国際センター日本語教育専門員

今回取り上げたテーマや練習案についてのご意見をお待ちしています。また、今回の記事を使って授業をしたときの様子や結果などお寄せください。